

日本語教育に役立つ「基本動詞ハンドブック」の開発

今村 泰也(言語対照研究系)
プラシヤント・パルデシ(言語対照研究系)



「基本動詞ハンドブック」とは？

「基本動詞ハンドブック」(以下、ハンドブック)は日本語学習者や日本語教師が基本動詞の理解を深めることができるように、基本動詞の多義的な意味の広がりを図解なども用いてわかりやすく解説したオンラインリファレンスです(図1)。2016年2月現在、**65見出し**が公開されており、3月下旬には新たに**10見出し**が追加されます。



図1 ハンドブックのインターフェース

ハンドブックはコーパスに基づいて執筆されており、各語義の文型、例文、コロケーション、誤用例、解説、関連語などが載っています。また、視聴覚コンテンツも充実しています。

さまざまな視聴覚コンテンツ

コアイメージ: 見出し語の各語義を提示する前に、語の中核的な意味をコアイメージとして図示しています(図1中央)。

多義ネットワーク: 見出し語の中心義から派生義への意味拡張を視覚化した多義ネットワークを表示しています(図2)。

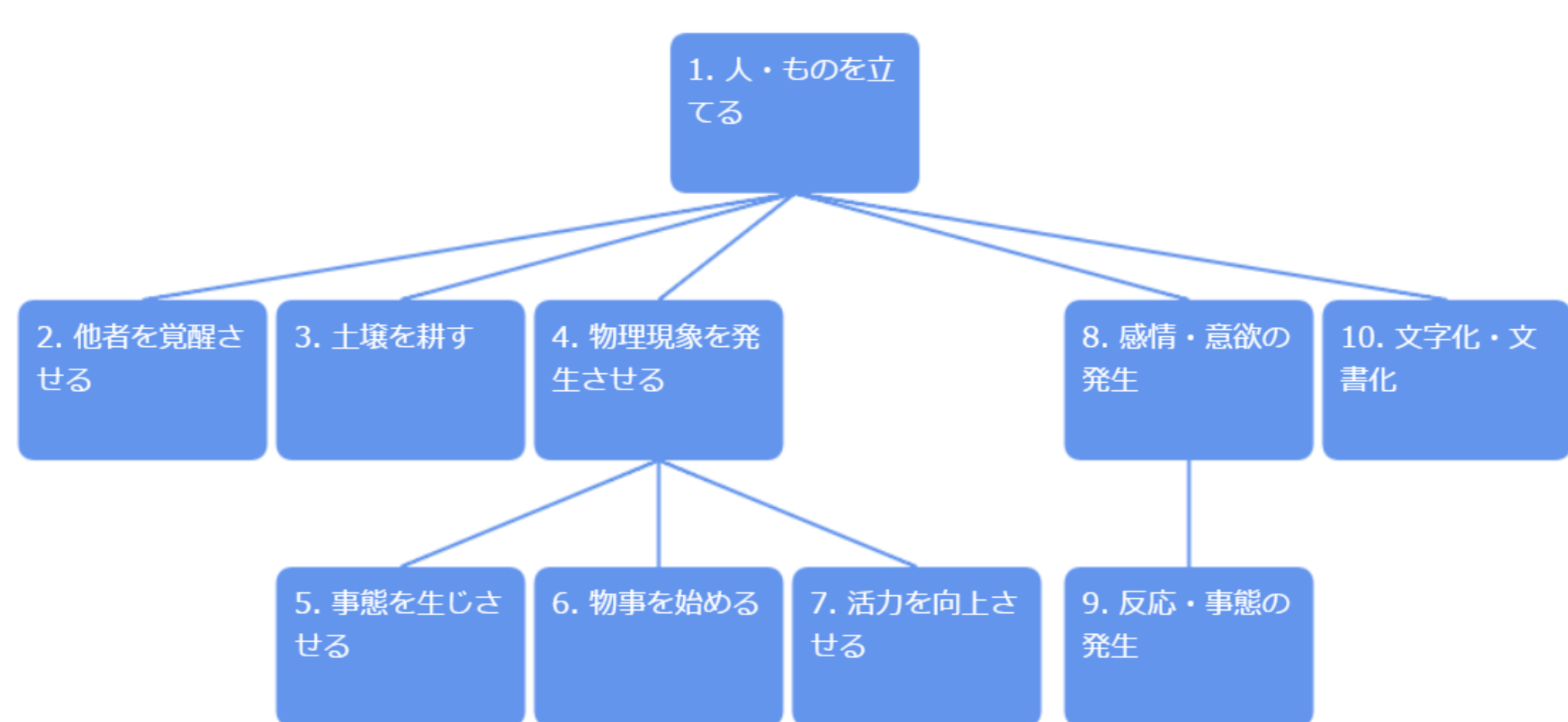


図2 「起こす」の多義ネットワーク

活用形のアクセント: 見出し語の**15種類**の活用形をアクセント記号付きで表示(例: お⁷きた)。音声も聞けます。

例文音声: 語義ごとに6つの例文(執筆者による作例)とコーパスの用例を提示しています。すべての作例には音声が付く、①例文ごとの再生、②語義ごとの一括再生、③見出し語の全例文の一括再生(ランダム再生も可)ができます(図3)。

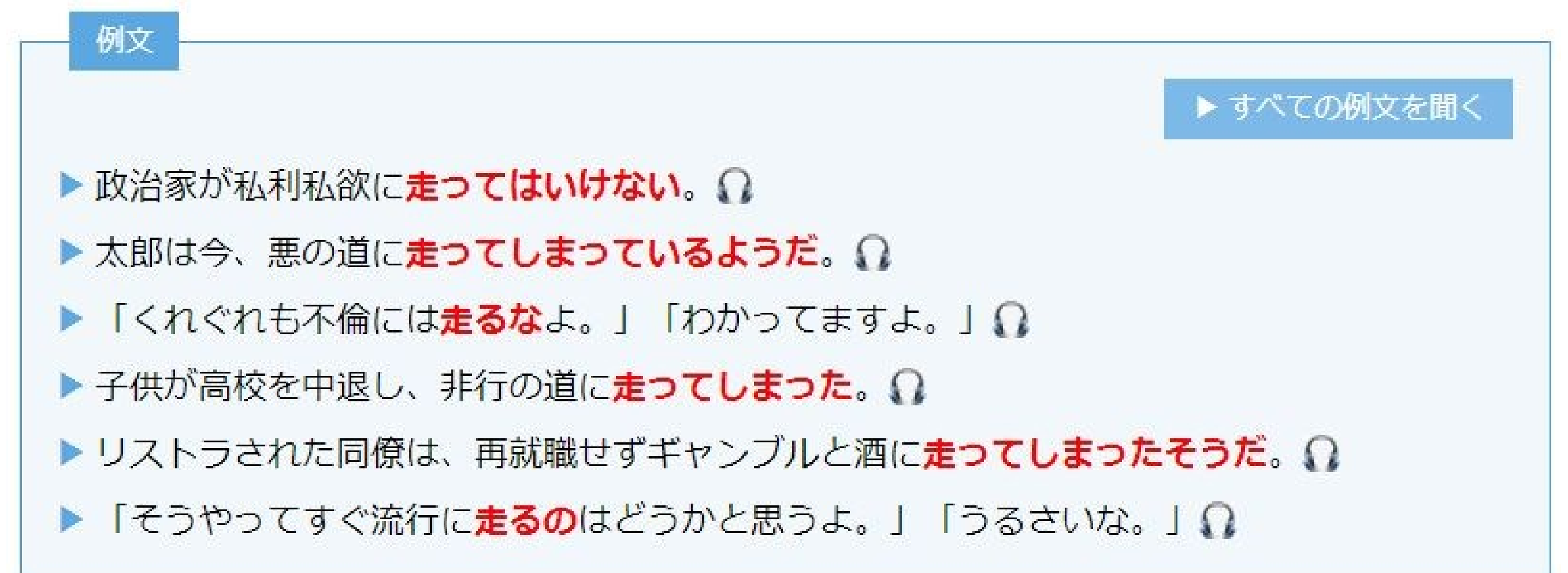


図3 「走る」の例文(語義7: 好ましくない傾向に傾く)

例文に応じたナレーター: ハンドブックには膨大な数の例文と会話があり(現在公開中の65見出しの例文数は**4400**)、さまざまな年齢層の男女**十数人**で録音作業を行っています。



⇒ **今までに例のない音声教材・音声データベース**

ショートアニメ:

見出し語の意味の理解と記憶を促進するためにショートアニメを用意し、使用場面やコアイメージとの関連を示しています(図4)。ショートアニメには音声と字幕も付いています。



図4 ショートアニメ
「上がる」語義16(緊張)

「基本動詞ハンドブック」

<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>